

千年王国の栄光のヴィジョン

はじめに

●この 113～118 篇は一つのまとまった賛美集です。この賛美集は、ユダヤ人たちの三大祭り、すなわち、「過越の祭り」「五旬節の祭り」「仮庵の祭り」において歌われます。そうした大切な集会で歌われる賛美だとするならば、そこなにかままとった、大切な真理が含まれ、あるいは隠されていると考えるのは当然のことです。詩篇の中には 16 篇ほど、「メシア詩篇」と言われるものがあります。その中で、特に、詩 118 篇は「メシア詩篇」全体の教えを要約していますし、またそこには、神の選びの民であるユダヤ人が長い間にわたって経験してきた迫害による排斥とその苦しみの歴史が概観され、メシアが来て、神の王国を打ち立てるということで終わっています。

1. すべての国々の礼拝の実現は、ユダヤ人の民族的な救いの実現を通して

●まず、詩 117 篇からみてみます。この詩篇は詩篇中で最も短い詩篇です。しかし実は、この詩篇には驚くべき事実が含まれています。その事実とは、異邦人も神の民の交わりの中へ受け入れられているということです。「すべての国々よ。主をほめたたえよ。」ユダヤ人がこの詩篇を読むとき、どのような思いでいるでしょう。

●ユダヤ人がユダヤ人であるということだけで、どんな苦しみを味わい、辱めを受けてきたか、その現実を知るならば、この詩篇で言い表されていることは神の奇跡的介入なしには歌えないことです。イエスとその弟子たちがこの詩篇を最後の晩餐の後で歌ったとするならば、イエスはこの詩篇の内実が満たされるためには、神の民ユダヤ人がどんなに苦しみの中を通らなければならないかを知っていたはずで

●この 117 詩篇が実現されるためには、ユダヤ人、それから異邦人の救いがなされて実現するのではないのです。むしろその反対です。異邦人の救いの後に、<ユダヤ人たちの民族的な救い>がなされてはじめて実現することなのです。「すべての国々の民」がエルサレムにおいて、主を礼拝するのはいつでしょうか。それは、キリストの再臨以降です。つまり千年王国がこの世に実現してからです。

2. ユダヤ民族の苦難の歴史

●詩 118 篇 10 節には、「すべての国々が私を取り囲んだ」とあります。「取り囲む」ということが四回出てきます。「彼らは蜂のように、私を取り囲んだ」。ここでの「すべての国々」とは、イスラエル、ユダヤ人に敵対する勢力です。全世界の民がイスラエルに結集し、ユダヤ人を抹殺しようとするのです。

●イスラエルの歴史は苦難の歴史です。それは長く、そして悲惨そのものでした。創世記3章で出てくる「女の子孫」(神の選びの民)と「蛇の子孫」(神に敵対する勢力)の反目は、歴史の終わりまで続くのです。反ユダヤ主義も同様です。エジプトのパロやアマレク、バビロンのネブカデネザル、ハマン、ヘロデ、ローマの皇帝カエサル、近年ではドイツのヒトラー、ロシアのスターリンなど。これらはすべてユダヤ人を抹殺しようとサタンに用いられた人物です。

●A.D.70年、エルサレムの神殿がローマ軍によって崩壊、100万人の人が殺されました。40万人のユダヤ人が離散しました。マサダの戦いでは、千人近くユダヤ人が自然の要塞であるマサダに立てこもります。しかし、最後に自害します。A.D.135年はユダヤ民族としての国家が完全に崩壊した年です。それ以来、彼らは放浪の民として、1948年にイスラエルが建国されるまで、実に、1800年間も、いろいろな国の中で生き続けることを余儀なくされたのです。それは苦しみ歴史でした。

●キリスト教の歴史における反ユダヤ主義は、キリスト教がローマの国教となつてからいよいよひどくなりました。すべてのユダヤ人の財産は剥奪され、公職からは追放され、いやしい仕事にしかつけないようにされました。中世においての十字軍の遠征によるユダヤ人の虐殺、その後の宗教裁判による火あぶりによる虐殺と続きます。ユダヤ人はキリスト教国の中で、「隠れユダヤ人」として生きることを余儀なくされたものたちが多くいます。しかしそれが発覚したならば、拷問を受け、火あぶりによって殺されました。たとえ、あとで改宗したとしても、そのあわれみは生きたままでなく、死んでから火あぶりにされるだけのことでした。殺されることには変わりありませんでした。

●こうしたキリスト教徒(クリスチャン)によるユダヤ人迫害の真実は、ミカエル・ブラウンの書いた『教会が犯したユダヤ人迫害の真実』という本に詳しく記されています。そしてユダヤ人の苦難は、歴史の終末において、これまでの歴史の中にもなかったほどの大患難時代を迎えることが預言されています。その苦しみ最終的な出来事は、反キリストによって結集された軍隊による「ハリマゲドンの戦い」です。これはすべての民がユダヤ人抹殺のために結集するのです。しかしその時において、彼らははじめて民族的な救いを経験するのです。

●詩116篇には、とても特徴的なことばがあります。それは「**主の御名を呼び求める**」ということばです。イエスを拒んだユダヤ人に対して、イエスはこういいます。マタイの福音書23章38節。
「見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」(ヘブル語では「祝福あれ、主の御名によって来られる方に」を「パール・ハバ・ベシェーム・アドナイ」といいます。)

●116篇の3節「死の綱」「よみの恐怖」の中で「主の御名を呼び求める」のです。118篇10節では、「確かに私は主の御名によって、彼らを断ち切ろう」(3度)と述べています。どのように彼らを断ち切ることができるのか。それは「主の右の手」によってです。

3. メシアの出現(キリストの再臨)による最終的な救い(千年王国の実現)

●詩 118 篇 19～29 節にはとても重要な聖句が並んでいます。

- ①すべての国々が私を取り囲んだ。確かに、私は主の御名によって、彼らを断ち切ろう。(10 節)
- ②エルサレムの神殿の「開かれた義の門」(詩篇 24 篇も参照) (19-20 節)
- ③「拒まれた石」が礎石とされること (22, 23 節)
- ④「主の設けられた日」(24 節) —贖罪の日—
- ⑤「ホサナ・・・主の御名によって来られる人に、祝福があるように」という悔い改めの祈り (25, 26 節)
- ⑥「ユダヤ人の民族的回心 (27 節)

●③と④はすでにイエス・キリストの初臨によって実現しましたが、①②⑤⑥はイエス・キリストの再臨によって実現する千年王国を待たなければなりません。詩 116～118 篇には、やがて実現する千年王国のヴィジョンが歌われています。そしてそれは必ず近い将来実現します。